

ケンボローセミナーIN 名古屋

2018年5月31日(木)にケンボローセミナーIN名古屋を開催しました

DDI.INC 月村文仁氏(カナダ)、マキシマスシステム社副社長 マーク・ボイビン氏、マキシمام AG テクノロジー社 リサ・バトラー氏を講師にお招きし、「IoT 養豚におけるマネージメントの可能性について」と題してセミナーを開催しました。

IoT(Internet of Thing)を組み込んだ養豚機器の活用により、農場内に入場しなければ不可能だった飼育状況の把握や様々なシステムの調整などが農場外からでも出来るようになり、さらなる最適化・省力化を図ることができるといった概要でした。

以下、セミナー内容の抜粋です。

DDI社 月村氏

① IoT(Internet of Things)の概要

- IoT はセンサーが埋め込まれた商品などを、インターネットのネットワークを通してパソコンなどから商品の情報を閲覧・指示するという「設置」「通信」「閲覧・指示」の3つのパートからなる道具の総称
- これを養豚システムに応用して、養豚における計測可能な要素は全て IoT を通して計測・記録できるように になり、また機械の自動化可能なものは全て自動化させて作業時間の短縮等につなげられる

② IoT を利用した養豚の最終目的

- IoT で自動制御された肥育舎を例に考え、豚舎内の様々な環境の把握や制御をはじめ、豚の頭数や体重などの生体情報なども全て自動で記録を蓄積させることができる
- 養豚現場の中でも特に手間がかかる重要な作業を自動化させることで、人員が少なくても迅速なトラブルの対応が可能になる。蓄積された膨大なデータから予測される対処と管理が可能になる

マキシマスシステム社 マーク・ボイビン氏

① マキシマスコントローラーの概要

- インターネットに接続し農場内に設置したマキシマスコントローラーにログインすることで、農場内の親機や事務所からはもちろん農場外からでも舎内環境や飼料タンク残量などの閲覧・指示が可能となる
- ログインはパソコンだけでなく手持ちの Android や iPhone からでも可能なので手軽に操作できる

② 計測・蓄積できるデータ体系の説明

- 農場内における豚の生体データや親機に集まる各センサーからの環境データ、人員やデータ入力履歴など多種多様なデータを適切なファイルにそれぞれ集約して保存し、蓄積されていくというイメージ
- 現場でも、個々の豚の IC タグを読み込めば一瞬でその豚の成績や血統などを ipad で確認できるシステムを紹介

マキシمامAGテクノロジー社 リサ・バトラー氏

① 開発中ソフトの紹介、今後の開発/販売予定

- 肥育舎における肉豚の採食行動・飲水行動と状況をペンごとに視覚的に把握できるソフトの開発
- 現在は肥育舎の生産管理ソフトウェア開発、2019年以降は生産管理やリアルタイムデータをより活用できるソフトなどを開発/販売していく予定

② マキシマスに集約・蓄積できる週間レポートの例

- データ蓄積される週間レポートの項目を通し番号で登録し、各センサーの数値や豚の健康状態、舎内状況をコメントとして残すことが出来るものを例として紹介

ケンボローセミナーの様子を紹介します



• DDI社 月村氏



• マキシマスシステム社 マーク氏



• マキシマムAGテクノロジー社 リサ氏



• 左から
DDI社 平山氏、月村氏
マキシマスシステム社 サンディ氏、マーク氏
マキシマムAGテクノロジー社 リサ氏